

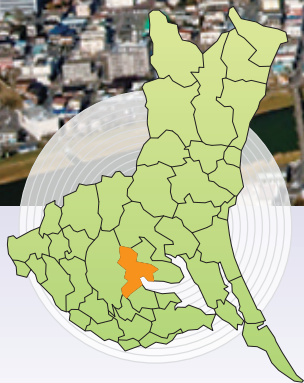
# 第15回 支店長のわがまち紹介



## 茨城県土浦市

「安心・安全な“日本一”住みやすいまち」を目指す

土浦市の景色（マラソン、花火、帆船、亀城公園、航空写真） 写真提供：土浦市



茨城県内の44市町村を、それぞれにゆかりのある筑波銀行の支店長がご紹介します。第15回は、土浦市です。

筑波銀行の本店所在地は土浦市であり、土浦市とは密接な関係を築いています。今回は、本店営業部長の豊田高久が、土浦市長 中川清氏、市長公室長 塚本盛夫氏、都市整備部長 東郷和男氏、産業部長 久保谷秀明氏にお話を伺いました。

### ●土浦市が一番と考えていること、自慢できることはなんですか。

#### ■豊かな土地に広がる恵まれた土浦市の環境

土浦市は、東にわが国第2位の広さを誇る霞ヶ浦、西に万葉の世から名峰と謳われた筑波山を望む、水と緑に恵まれた歴史と伝統のある茨城県の南部の中核都市として発展してきました。比較的災害も少なく、東京から60km圏内、成田国際空港から約40km、筑波研究学園都市にも隣接しており、生活するには大変便利なまちです。

また、市内にはJR常磐線の駅が3つ、常磐自動車道のICも有し、交通幹線網も整っています。さらに、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）などの広域交通幹線網の整備が進展しており、今後、ますます産業・物流の拠点として多くの可能性を秘めたまちになります。

#### ■土浦市が誇る「1位」の数々

観光・レジャー・スポーツに関しては、毎年10月に、今年で83回目を迎える「土浦全国花火競技大会」が開催されています。毎年80万人もの観光客が訪れており、名実ともに“日本一”の花火大会となっています。

また、毎年4月には、約2万7千人のランナーが競い合う「かすみがうらマラソン兼国際盲人マラソンかすみがうら大会」が開催され、今年で23回目を迎えました。中川市長も第1回から続けて出場し、世界各国から訪れるランナー達とスポーツを通して交流を深めています。

さらに、警察署長も一目置く優秀な「青色防

犯パトロール」隊も整備されており、安全・安心なまちの象徴としています。「土浦キララまつり」でのパレードも大変素晴らしいものでした。

室町時代に築かれた土浦城（別名亀城）跡公園に隣接する土浦市立博物館には、国宝である南北朝時代の「短刀」を始めとした10点の国宝級の文化財が展示されています。これは、市町村規模の博物館では大変珍しい事です。また去年は、大人気ゲーム『戦国BASARA』とのコラボレーション展を開催し、約3万人が訪れました。大成功を収めた背景には、土浦市の深い歴史があったからこそだと思います。

農産物では、霞ヶ浦の肥沃な土壌で育つ栄養豊富なレンコン、主に切り花や生け花に用いられるヤナギ類の生産量は、“日本一”を誇ります。

さらに、全国的に医師不足が叫ばれるなかで医療福祉サービス面においても、土浦市は、10万人当たりの歯科医師数及び診療所数で“県内一”の高い水準を維持しています。

教育面に関しても、市内に幼稚園から大学までの教育機関が揃っています。高等学校に関しては8校も立地しています。公立小中学校の全教室には、エアコンを完備するなどして、子供たちへの快適な教育環境づくりにも力を入れています。

#### ■「総合力・バランス力」で光る土浦市の魅力

茨城県は、総じて災害が少なく、可住地面積も広いので、“のんびり”とした土地柄です。その中でも土浦市は、豊かな自然や整備された都市インフラ、さらに魅力的なソフト施策によって、「1・



2・3次産業のバランスが良いまちである」と自負しています。

また、土浦市都市計画マスタープラン（平成26年3月）では、都市づくりの理念として、だれもが「住んでみたい、住んでよかった」と思える、快適で安心・安全な「日本一住みやすい」まちづくり、と決めました。土浦市が誇る総合力の高さや、地域資源を活かし、市民と共に考えながら、協働のまちづくりを進めていきたいと思っています。

さらに、平成26年3月28日付で「土浦市中心市街地活性化基本計画」が内閣総理大臣認定を受けました。「歴史が息づき 人々が集う、魅力ある湖畔の都市」という将来像を見据え、今後5年間で霞ヶ浦周辺も含めた中心市街地の活性化にも取り組んでいきたいと考えています。

●**筑波銀行に期待することはいかがでしょうか？**

■**地銀ならではの地域密着型の協働まちづくり**

地域密着型の地銀として、積極的にまちとの関わりを持ちながらCSR（企業の社会的責任）に取り組んで欲しいと願っています。以前から、「土浦キララまつり」や地域一斉清掃など、地域イベントに参加いただき感謝しております。今後は、「花いっぱい運動」や各支店周辺の歩道や広場について、「里親」となって維持・管理をするなど、市民や行政との協働によるまちづくりにも関わって欲しいと考えています。

■**まちの活性化に向けた提案**

地域の商店との繋がりが強いという地銀の強みを活かし、各商店の状況やニーズを把握した上で、各商店へのコンサルティングや、複数商店のマッチングやコーディネート、M&Aなどの提案などを行って欲しいと考えています。

また、空き店舗の活用方法の提案や、まちなか居住を推進するための補助事業なども銀行と連携しながら展開していきたいと考えています。

さらに、中心市街地活性化基本計画対象区域内である、自然豊かな霞ヶ浦湖畔から、歴史情緒溢れる亀城公園周辺を結ぶアイデアの提案なども行って欲しいと考えています。このような分野を得意とする筑波総研のシンクタンク部門には大きな期待を寄せています。

●**今後の展望を教えてください。**

■**「日本一住みやすいまち」になるための重点施策**

「だれもが『住んでみたい、住んでよかった』と思える『日本一住みやすい』まち」を創造するため、①多様な都市機能と自然資源の調和による、



中川市長



塚本公室長



東郷部長



久保谷部長



豊田本店営業部長

自立つ・発展的都市の形成、②暮らしを便利に快適にする、多様な機能が共存した都市部の形成、③市民の安らかな暮らしの確保と、快適な暮らしを支える地域力の向上、④自然・歴史資源などの活用と低炭素社会の実現、の4点を「土浦らしい都市づくりの方針」として取り組んでいきます。

具体的には、まず将来のまちの礎となる本庁舎を駅前に移転します。加えて新図書館の建設も進め、中心市街地活性化の切



新図書館を核とした土浦駅前の再開発施設（イメージ図）

り札としたい考えです。また、新市営斎場の建設、道路延伸整備などを進めることで、市民の暮らしの「質」をさらに向上させていきたいと考えています。

次に、学校施設の耐震化や改築、災害に強いインフラ設備を整備し、これまで以上に「市民が安心できるまち」、また、霞ヶ浦や歴史的なまち並み、花火大会、マラソン大会などの「土浦らしい」地域資源を最大限に活かし、「自分のまちに誇りと愛着が持てるようなまち」を創造していきたいと思っています。

さらに、家賃助成による「まちなか居住」の推進や、企業誘致や企業立地による雇用確保に組み込み、少子化・人口減少対策を図り、「地域力」のパワーアップを図って行きたいと思っています。

人が集まるところに商売は発生します。まちなかに人を呼び込む施策を推進することで、商業も活性化するでしょう。以前の活気を取り戻すのではなく、「新しい土浦市の創造」に、全職員がスピード感と情熱を持って邁進して行きたいと思っています。そのためには、限られた時間の中で1人ひとりスキルアップをすることが重要であると考えています。

市民が「土浦市に住んで良かった」と思えることこそ「まちの活性化」であると言えます。

「安心・安全な、日本一住みやすいまち」を実現するために、積極的に市民や企業が持つ柔軟なアイデアを取り込むなど、市民と一体になってまちづくりを進めて行きたいと思っています。

（文責：筑波総研株式会社 研究員 富山かなえ）